

3.11 から 3 年 福島に生まれ 武蔵野で生きていく



武蔵野・生活者ネット市議 西園寺みきこ

3.11 当日、私は市議選立候補準備のため武蔵野市内のあるお宅の玄関先にいました。その夜は近所のお宅の存否確認。帰宅困難者のために道案内などをしました。原発事故に全く思いが至らずに…。

翌日翌々日と、とんでもない規模の大津波の映像と、次々と畳みかけるような原発の電源喪失メルトダウンの報道。3.13 深夜私は布団の中で泣きわめきました。生まれて初めてのことでした。福島市出身の理系女子、いわき市にも浪江町にも住んだ経験がある私にとって、原発がメルトダウンしたら何が起こるのか？ 東電の原発がなぜ福島県浜通りにあるのか？ 人の心と町が、原発マネーで変容してきた歴史も「アタマでは」よく知っていたのです。でも「行動」はしてこなかった。見過ごしてきた。次世代に向けて心底「申し訳ない、恥ずかしい」と思いました。

1 週間ほど休み「福島のこと」を一旦心の中の箱にしまい込み初当選。以降、議員としての日常に追われながら「武蔵野で何をやっていくのか？」を考え続けています。

2011 年 7 月「放射能と子ども学習会（天笠啓祐さん講師）」主催。菅首相退陣後の 9 月からは月 1 回「脱原発と平和を求める市民テモ」に参加しています。既に 28 回、国政の動向で市民の反応が変わるのを体感します。

2012 年初頭は原発都民投票直接請求の受任者として署名集めて街頭へ。市民が「原発ゼロでも電気が足りてる？」と原子カムラの嘘に気づき始めた頃でもありました。人を選ぶ選挙でなく政策を選ぶ選挙、お任せでない民主主義の重要性が広く理解されたと思います。

夏からは福島原発告訴団事務局スタッフとなり「これだけの大きな被害がありながら、なぜ誰も逮捕されないのか？ウヤムヤにしてはならない」の思いで、史上最多全国 14,716 人の告訴人による「福島原発告訴」を実現しました。検察は 1 年近く待たせた挙句 2013 年 9 月「全員不起訴」と判断しましたが、即座に東京地裁検察審査会へ申し立て。2014 年は無作為選出された審査員（都民）による審査が始まる予定です。福島県警に対して汚染水告発も同時に行いました。本当に本当に悔しいけれど、必死に闘い続けなければいけない。あきらめずに訴え続けなければいけない。日々の暮らしを維持しながら、多くの方々と連携しながら「福島のこと」に取り組んでいきます。



西園寺美希子

1958年福島市生まれ。
東北大学理学部生物学科卒業。
薬品会社の研究員、福島県立高校の教員を経て、結婚を機に退職し、東京都武蔵野市に住む。2002年、東京農工大大学院に社会人入学し、生ごみをテーマに研究。その後、市民グループに関わり市民委員を勤めるなどして、2011年4月、武蔵野市議会議員に初当選する。
ごみ・環境ビジョン21会員。

「日々の暮らしを維持しながら」と書きました。実はそこがとても重要です。権力者は運転手つきの車に乗り、家事は一切人任せ。まつりごとだけを考えればよい。だけど庶民は違う。毎日ご飯を作り、親や子どもの面倒を見て、締切のある仕事に追われ、悔しくても税金を払わなければならない。福島で普通に暮らし続ける人たちも同じなんです。

政権交代があろうと何しよう、子どもが生まれお葬式がある。役所もスーパーも機能しなければならない。福島に住む人がいる限り、町は動き続けます。高3の受験生と80代の両親を抱える私の親族はこう嘆いていました。「子どもの体調が心配。福島県民が避難先で嫌がらせを受けた報道を聞くと、息子や娘の将来が不安でならない。でもいつも目の前のことで精一杯で、何がじっくり考える余裕がない」私の「東京の人だつてそんな人ばかりじゃないよ。堂々と胸を張って東京の大学を受験して」という言葉に笑顔を返してくれましたが、その本心は…。

学校では「秩序を守る」ことは教えるけど「何かおかしいことが起きた時、どうやって声を上げるか？ 闘うか？」は教えません。福島に住む普通の人たちは「こんなことおかしい」と毎日感じながらもその表現方法がない。漠然とした不安と諦め。「もう放射能のことは気にしない！誰も何もしてくれない！」という開き直り。「私が逃げたら、この仕事やる人がいない」という公務員や医療関係者の責任感。波に翻弄され、漂うようにして、だけど家族で支え合いながら守り合いながら身を削って必死に日々を過ごしているのです。

間もなく3.11から3年を迎えます。社会が大きく変わるはず、という期待は、安倍政権の原発再稼働（を運転再開と言い換えているのに注意）輸出、など正反対に裏切られています。その安倍政権を正当な民主主義のルールで選択したのは私たち国民…。結局、国民がもっともっと賢くたくましくならなければ、との思いを強くしています。

2013年夏から「武蔵野市で市民発電所を！む〜ソーラープロジェクト」をスタートしました。身近なところで「電気を使う側」でなく「作る側」になる。受身でなく主体的に考える。そんなことを伝えていきたい。福島から子連れで避難してきた方々とのご縁も大事にしながら、自分自身と家族の生活を維持しながら（ここが大事なんです）、ずっと闘い続けていきます。